

沖縄県西表島でのミシシッピアカミミガメの捕獲記録

日名耕司・関東準之助・早川玲子・田口麻子・福田真

西表野生生物保護センター

Record of Red-eared slider (*Trachemys scripta elegans*) in Iriomote Island, Okinawa prefecture.

By Koji HINA, Junnosuke KANTO, Reiko HAYAKAWA, Asako TAGUCHI and Makoto FUKUDA

Iriomote Wildlife Conservation Center

今回、西表島内のため池においてミシシッピアカミミガメ(以下、アカミミガメと略す)が捕獲されたので報告する。捕獲場所は、沖縄県竹富町字古見の美原地区にある観光水牛用のため池(北緯24度20分39.85秒、東経123度55分33.31秒)である。2014年3月25日に西表島住民から見慣れない大きなカメをため池で捕まえたという報告があり、筆者らが回収した。回収した個体は、外観からアカミミガメと判別された。捕獲されたアカミミガメは、メスで背甲長258.7mm、背甲幅215.0mm、腹甲長251.1mm、体重3,000gであった。解剖し生殖線の発達具合を観察したところ、性的に成熟しており最大卵胞直径は25.5mmであった(図1)。また、輸卵管内に3個の卵が存在していたが、卵殻の損傷がないにもかかわらず押しつぶされた(しぼんだ風船のような)状態になっていた(図2)。消化管内容物を観察したところ植物質のみ確認され、イネ科植物の葉、イチジク属の果実、カキノキ属の果実であった(図3)。動物質は確認されなかった。西表野生生物保護センターはイリオモテヤマネコやその他の野生動物の目撃情報を収集している。捕獲場所付近では捕獲の少し前から、人慣れた様な見慣れない大きなカメがいるとの目撃情報が地元住民より寄せられていた。

西表野生生物保護センターで周辺の調査や聞き込みを行っていたところ、住民によって手づかみで捕獲された旨の連絡があった。個体は手づかみで捕獲されており、特に逃げる様子もなかったことから、飼育された個体が逃げたか、意図的に放した可能性もある。本個体の捕獲以降は、アカミミガメの目撃情報は寄せられていない。西表島には在来カメとして、ヤエヤマセマルハコガメとヤエヤマイシガメが生息している。アカミミガメはこれらの在来カメと競合し、希少な水性植物、魚類、両生類、甲殻類等に影響を及ぼすことが考えられる。西表野生生物保護センターは、日本最後の秘境と呼ばれる西表島の貴重な生態系を守るため、今後もアカミミガメなど生態系に悪影響を及ぼす外来生物の侵入について、注意喚起と監視を行っていく。



左上：図1. 取り出された生殖腺

左下：図2. 取り出された卵殻

右上：図3. 採取された消化管内容物